

## これまでのヒアリングの主な内容＜連携中枢都市圏等関連＞

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
<b>1 現状と予測</b>	<p>(警鐘と受け止め)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広域人口は現在、約226万人。圏域の面積が5,766平方キロメートル。この広さは三重県の面積に匹敵。</li> <li>○ 圏域全体の人口は、平成の初めからずっと220万人台を維持。平成17年の227万人がピークで、減少傾向。2040年には191万人となり、それ以降も、減少とする推計。あわせて高年齢化率が、2010年で約23%が2040年には約36%と急上昇との見込み。</li> <li>○ こうした推計は非常にショッキングな数字だが、これまでの施策をこれまでどおり実施したならばこのようになるという警鐘だと受けとめ。</li> </ul>	<p>(強い危機感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 備後圏域は、現在、約 87 万人の人口。社人研の推計によると、2040年には約 20 万人が減少。率にして約 22%の減。備後圏域の2、3の自治体の人口に相当する。減少割合も他地域と比べて高く、強い危機感を抱いている。</li> </ul>	<p>(強い危機感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 盛岡広域は約 48 万人。30年間で 10 万人が減少する見込み。特に若年層が著しく減少し、女性がいなくなるので、合計特殊出生率が上がっても増えない見込みとなっており、強い危機感を持っている。</li> <li>○ 人口の社会動態は、一定の人口のダム機能を果たしているが、それ以上に首都圏とか宮城県などへの転出が多い。また、転出超過の中でも際立っているのは、25～34 のUターン世代である。</li> </ul>	<p>(厳しい状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 八戸圏域は約 32 万人。人口・出生数ともに圏域全体で減少傾向。特に八戸市から約 30～40 キロの山間部にある田子町、新郷村では、10年間で出生数が半分以下。</li> <li>○ 老年人口も、中心市である八戸市及び近接の町では8年間で20%以上の急激な増加。一方、都市部から離れた町村では既に老年人口の減少も始まり、中心市から遠い町村ほど、より厳しい状況。</li> <li>○ 八戸市は、全体的に減少してはいるが、中でも中心街から離れた地区もしくは開発年次の古い住宅地でより顕著に人口の減少。新市街地では、新しいまちづくりが進められ、人口の大幅な増加。</li> <li>○ 人口の減少に伴い空き家が増加。平成 10 年の調査時では1万 2,900 戸あった空き家数が、平成 20 年の調査では1万 9,000 戸と、10年で約 1.5 倍。そのうち、腐朽・破損のある住宅は2,300戸。何らかの対応が必要。</li> </ul>	<p>(3つの課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 飯田広域は約 16 万人。</li> <li>○ 地域が直面する課題は、大きく3つ。人口減少・少子化・高齢化。行政の立場では公共施設の老朽化。地域経済の観点から見た雇用機会の減少。</li> </ul>	<p>(30年先を先行)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 根羽村は長野県の最南端に位置。隣が愛知県豊田市あるいは岐阜県恵那市。人口 1,025 人。総面積は約 90 平方キロメートル。林野率が 92%。</li> <li>○ 村の人口の推移は、昭和 30 年代が村の人口の一番ピークで約 3,280 人。その後、減少をして、現在、平成 26 年では 1,025 人である。</li> <li>○ 平成 2 年までは自然動態による人口減少よりも社会動態による人口減少が多く都市部へ流出。主に、若者だろう</li> <li>○ 平成 2 年を境に社会動態による減少は減少。出生数が大幅に低下したことによる自然減の影響が非常に大きい。</li> <li>○ 高齢化率も根羽村では 46.9%と、国の平均の約 30 年先行している感じの数字である。</li> </ul>
<b>2 対策(概論)</b>	<p>(200万人広島都市圏構想)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「200万人広島都市圏構想」を掲げ、圏域一丸となって人口減少予測を覆していきたい。</li> <li>○ この構想は、広島広域都市圏協議会を構成する17の市町が経済面、生活面での連携を深め、都市連盟が、強固な信頼関係をつくり、そのもとで圏域内全ての市町が輝くことができる圏域づくりを行い、圏域</li> </ul>	<p>(地方の時代)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今、まさに地方の時代。戦略と知恵によって今後発展する地域と衰退する地域がより鮮明になるのではないか。</li> <li>○ 経済成長へのチャレンジ、心豊かな暮らしの実現といった2つの視点を掲げ、人口減少の逆境を乗り越え、圏域の将来像であります豊かさが実感でき、いつまでも住み続けた</li> </ul>			<p>(人口を維持できるか)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 10万 5,000 人の市。10 万人が果たして維持できるかどうか。都市圏では、今、16 万人弱。15 万人を維持できるかどうか。このような議論の方が我々としてはしやすい。今後、総合戦略を考える中で、そういった議論を詰めていかなければいけない。</li> </ul>	<p>(小さな循環と流域単位の循環)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 私どもは地域づくりの原点と流域連携軸という形で村づくりをしている。</li> <li>○ 小さな村の中で人が住み続けるための仕組みをつくる。まず、働く場所、雇用の循環があること。地域内での経済、地元にお金を落とす小さな経済の循環というものをしっかりとつくっていききたい。そして、さ</li> </ul>

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
	<p>内の住民がずっと住んでいたいと思う圏域を形成することで、圏域人口200万人を維持することを目指すもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ この構想の実現のため、新しい広域連携の仕組みである地方中枢拠点都市制度を活用。</li> <li>○ 拡大を前提として、かつ成長を追求するこれまでの考え方からいかに転換するか。より早く、より遠くへ、より合理的にといった追求型の従来の発想を、よりゆっくりと、より近くへ、より寛容にという発想の転換が求められる時代が来ている。</li> </ul>	<p>い備後圏域の実現に向け取り組みを進めていきたい。</p>				<p>らにサービスの循環、小学校、中学校、保育園、医療、高齢者福祉等の最低限のサービスの小さな循環を村の中で起こす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ どうしても小さな村だけでは維持していくのは非常に困難であるため、矢作川の流域の中で支援をいただき、それぞれの地域が生き残っていく仕組みをつくり出していきたい。</li> </ul>
<b>3 人口減少食い止め策</b>						
(1) 自然減対策	<p>(圏域全体で出生率向上)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 出生率の向上については、これからの労働力減の中で女性が社会参加できるよう、待機児童ゼロを目指す。</li> <li>○ 近隣市町との通勤途上の施設をある程度整えることで比較的たやすく就業できるようにする。</li> <li>○ 一つ一つの区画単位で出生率を全部伸ばすということを考えておらず、圏域全体で高める必要がある。期間として、十年くらいのスパンで物を見ていかなければいけない。</li> </ul>	<p>(数値目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2040年には年少人口や生産年齢人口が大きく減少する予測。今後は、年少人口が10万人を切らない、生産年齢人口は50万人を維持するなど、具体的な数値目標を持って、早期に効果的な人口減少対策を講じていく必要がある。</li> </ul> <p>(中心市の自然増が鍵)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2012年は、これまで自然増であった福山市が自然減に転じている。圏域内の他市町においては自然減が常態化。今後、福山市がいかに自然増を維持することができるかが圏域の人口減少に歯止めをかける点では大きいのではないかと。</li> </ul> <p>(人口流出の歯止め)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 福山市は地方中枢拠点都市として、圏域の人口流出に歯止めをかけられるよう、大胆な政策の立案と実行といった攻めと調整の機能を担わなければならない。</li> </ul>	<p>(結婚する環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 結婚する環境が重要。まちの魅力や文化など価値判断を推しはかれないもろもろのものが総合的にあるのではないかと。</li> </ul> <p>(市町村では限界もある)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 合計特殊出生率を2.0に回復するのは意欲や気力もあるが、岩手県内の副市長村長は、いろいろなことをやってきたけれども、何をやっても1つの自治体ではなかなかうまくいかないと言っている。国や県に頑張ってもらいたいという声がある。</li> <li>○ 市町村は本当に頑張っている。なるべく努力をしながら、交流人口もふやしていくことが重要。</li> </ul>			

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
		<p>○ 福山市は、合計特殊出生率は1.73%と高いが、生産年齢人口の比率は低い。ここが解決できないと本圏域の人口流出に歯止めをかけることはできないと考えている。</p>				
(2) 社会減対策		<p>(中心市がダム機能)</p> <p>○ 備後圏域では、5年間で約5万1,000人が転出。そのうち三大都市圏が全体の約3割を占めるものの、近隣の広島市や岡山市といった地方の大都市へも約2割の人が転出。</p> <p>○ 福山市のみ社会動態がプラスとなっており、圏域の人口のダム機能を果たしている。</p> <p>(生産年齢人口比率の向上)</p> <p>○ 福山市は、子育て支援環境は充実している。しかし、それだけでは人口流出に歯止めをかけられない。</p> <p>○ 生産年齢人口比率が低い要因は、大学進学や就職で転出をしてそのまま福山に戻らないこと。働き盛りの世代が定着していないこと。老年人口になるとまた比率が高まることから、福山はセカンドステージで選ばれる都市という見方もできる。</p> <p>○ 圏域の核である福山市が引き続き高い出生率を維持する中で、ウイークポイントである生産年齢人口の比率を高めることで圏域全体の定住人口の増につながるものと考えている。</p> <p>○ 福山の場合は広島県でも賃金、給与所得は低い、物が安い。外から来た人は住みやすいといった評価も得ている。今後、IターンやUターンは、福山市はいかに生活しやすいかといったことを大いにPRする。あわせて雇用の場をどういう形</p>	<p>(雇用の場)</p> <p>○ 定住には、ヒト・モノ・カネ・情報があることが必要である。人材が地元で定着することや、雇用の場があることはあえて申し上げるまでもない自明の話である。</p>		<p>(中心市内の人口移動)</p> <p>○ 平成の大合併を経て、中山間地を多く抱えている中心市は、中心市の中の人口移動も非常に大きな課題。まちが空洞化し、山が過疎化する中で、一時的にだが、里の人口だけが增加している状況。これについても歯止めをかける必要がある。</p> <p>(Uターンする場としての総合的な環境整備)</p> <p>○ 若い皆さん方がこの地域に帰ってきて、安心して住み続け、子育てができるための地域づくりが必要。帰ってきて安心して暮らせるためには産業基盤もしっかりとなければならない。何よりもこうした地域に帰ってきたいと考える人づくりをしていかなければいけない。こういったことを総合的にやらないと人材のサイクルはしっかりと機能しない。</p> <p>○ 人材のサイクル構築の政策をずっと進めてきて、社会増減の部分はかなり減少幅が縮小してきている。それを反転させられるかどうかは、我々の力だけではやはり弱いのではないかというのが冷静に見た場合の実感。大都市から人を押し出すような部分をどうやってつくるか。これは地方だけでは絶対できないところであり、ぜひ国として考えていただきたい。</p>	<p>(地域への誇り)</p> <p>○ 地域が存続するためには次世代を担う子供たちが自分たちの地域に誇りと自信を持つことが大事。大きくなれば自然と戻ってくる。そういった仕組みを我々大人がしっかりとつくる必要。特に高校就学が大きな問題。バックアップがあればありがたい。</p> <p>(ハイブリッドな働き方)</p> <p>○ 田舎で、1つの職業で一定のお金を稼ぐのは非常に難しい。林業等に加えて、農業、観光(インストラクターや農家民泊等)との組み合わせが必要。Iターンの人も含めて働く就業のチャンスをつくり、さまざまなビジネスチャンスをつくりたい。</p> <p>○ 新たな働き方として、ハイブリッド的就労形態を提案したい。いろいろな働き方を田舎では考えるべき。</p>

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
		で確保していくか。生産年齢人口の増加につなげていく施策をやっていききたい。				
<b>4 課題対応策</b>						
(1) 資源不足 (※人口減少に伴い、ヒト不足、モノ不足、カネ不足等の資源不足が生じることとして考えられるもの)	(限られた資源の活用) ○ 国の経済社会が成熟期に達したと状況の中、限られた地方資源を活用して、いかに持続可能な経済社会システムを構築するかが重要な鍵。	(地域経済への影響) ○ 人口減少が地方に及ぼす影響は、行政運営のみならず、経済にも大きく影響を与える。今後は、人口減少に対する課題意識、危機意識を住民と共有する中で、この危機を乗り越えていかなければならない。  (歳出増と歳入減のギャップ) ○ 市の税収は現在、ピーク時の2008年度の811億円から、この6年間で96億円の減収。一方、社会保障関係費は、2008年度の400億円から6年間で167億円増加。人口減少や少子化、高齢化に進行により、今後、税収の大幅な増が見込めない中、この96億円の減収と167億円の増加のギャップをいかに埋めていくかが今後の行政運営の最大の課題。	(医師不足) ○ 盛岡の人口は一時、30万人に急増。これは、被災地からの流入。私どもは何かして沿岸被災地にお返ししたい。来てしまってなかなか復興が進まないとなれば、最後はここに住むかという話にもなる。それにしても、安全安心のかなめであるドクターが少ない。ここが課題。	(医師不足) ○ 全国の地方病院と同様に、当圏域でも医師不足が大きな課題。複数の開業医が分娩を中止。圏域の産科医が不足し、特定の医療機関に分娩が集中。 ○ 町村には、重症・重篤患者に対応し切れる病院はない。一刻を争う救命救急医療において、医師による治療開始時間遅れは救命率の低下が懸念。  (児童数の減少) ○ 少子化の影響として、児童・生徒数の急激な減少と、それに伴う学校の統廃合が課題。八戸市は、過去10年間で児童・生徒が10%から20%減少。 ○ 平成17年当時、生徒数が100名以上の学校で、児童・生徒の増減率が10年後の数値と比べるとマイナス40%を超える学校が7校ある。 ○ 児童・生徒数の減少に伴い、学校の統廃合が必要。平成23年3月に小学校が1校閉校し、隣接した学区と統合され、また、平成25年3月には中学校1校と高等学校1校が閉校、統合。今後、小中学校合わせて5校の閉校、他校への統合が決定。 ○ 中心部から離れた学区ほど減少が顕著で、小規模校を中心に統合、閉校を余儀なくされている。	(経済自立度の向上) ○ 経済自立度は、地域の方が自分たちの地域の産業だけで食べていけるのかを表す比率。 ○ 100%には行っていない。例えば公共事業がある程度それを補っている。しかし、そうしたものはまさに公共施設の老朽化問題や財政難の状況を考えれば、先行きが不透明。 ○ それであれば、将来的に見てもっと経済自立度を伸ばすことを考えていくことがこの地域の持続可能性につながる。	(地域経済の循環) ○ 92%が山。うち73%がスギ、ヒノキを中心とした人工林。何とかこれを使って生き残る仕組みをつくりたい。 ○ 村内森林組合を中心に木材生産から住宅用材として販売するまでの「トータル林業の仕組み」をつくってきた。 ○ 木の生産から家を建てるまで、それぞれの設計事務所、工務店がお互いに事業パートナーとして手を取り合う仕組み。地域資源を活用して、少しでも産業となって人が生き延びることを狙ったもの。 ○ いかに製品を販売するかが特に重要。公共施設等の地域材の活用を積極的にするべき。(木材を地元の福祉施設の薪ボイラーとして使う取組み等)。木材の分離発注などによって、地域の中の産業・森林が生き残っていけるようなことを提案したい。 ○ 木の駅で出てきた木材を地域通貨で買い取り、さらにその薪を実際に福祉施設で薪としてくべるまでを新たな産業としてNPOが担う。その地域通貨を使って地元の中で、商店でお金を使い、地元の経済を回していく。そのような小さな仕組みをつくっている。  (児童数の減少) ○ 小中学校の児童生徒の推移であるが、人口が多かった昭和30年

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
						<p>代、40年代がピークで、昭和40年は小中学生で668名、全人口の26%が小中学生。その後、平成26年には小中学校が61名、全人口の6%が小中学生という非常に少なくなっている現状。</p> <p>(生活の基盤の維持)</p> <p>○ 今流域ではさまざまな現象が起きてきておいる。人が少なくなっていくと、人が生きていくため、生活を維持するための最低の仕組みが壊れ、維持できなくなってくる。</p> <p>○ 空き家、農地の荒廃等々、さまざまな問題が出てきて、商店の減少についても非常に大きな問題で、日常生活用品が地域の中で賄えなくなってしまうと地域経済が崩壊して、そこには人が住めなくなってしまうということが発生してくる。まだ村には小さなスーパー、ガソリンスタンド、それぞれ最低限のものがかろうじてあるため、学校などととも、これを何とか維持していくことが最大の課題であると思っている。</p>
<p>(2) コスト増大 (※人口減少に伴い、高齢者比率の高止まりや国土の低密度化・分散化によりコスト増大が生じるものとして考えられるもの)</p>		<p>(歳出増と歳入減のギャップ)【再掲】</p> <p>○ 市の税収は現在、ピーク時の2008年度の811億円から、この6年間で96億円の減収。一方、社会保障関係費は、2008年度の400億円から6年間で167億円増加。人口減少や少子化、高齢化に進行により、今後、税収の大幅な増が見込めない中、この96億円の減収と167億円の増加のギャップをいかに埋めていくかが今後の行政運営の最大の課題。</p>		<p>(介護施設の不足)</p> <p>○ 当市においても、要介護認定者数が増加しており、平成15年から24年までの10年間で38.7%増加している。これに伴い、介護保険サービスの事業者数も増加し、同じく10年間で29.5%増加している。訪問介護・通所介護サービス事業所については、現状では不足していないが、特別養護老人ホームの入所待機者が150人程度あり、特別養護老人ホーム及び認知症対応型グループホームなど、入所施設の不足が課題となっている。</p>	<p>(拠点集約連携型の都市構造)</p> <p>○ 人口増加の時代に広がった都市圏をどういった形でダウンサイジングしていくか。中山間地にしても、郊外にしても、あるいは中心市街地にしても、そうしたそれぞれの特徴をしっかりと残していきながら拠点集約連携型の都市構造を目指していきたい。</p> <p>○ 公共施設の約45%が築30年以上経過しており、大規模改修の時期。築60年を過ぎると建てかえを考えなければいけない。将来的にどのぐらいの更新費用が要るかは</p>	

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
				<p>(地域公共交通の役割増大)</p> <p>○ 高齢化が進展する中で、市民の足を守る地域公共交通の役割がますます増大していく。八戸圏域では、八戸市で公営バスを有しており、公共交通政策に力を入れている。バスを利用しやすい料金体系を構築し、利用推進を図るため、圏域市町村をまたぐ広域バス路線の運賃を上限 500 円とする実証実験を、平成 23 年 10 月から2年間実施した。その後、利用者数が1割ほど増加しており、平成 25 年 10 月から本格実施に移行している。また、広域路線の運賃改定とあわせ、市内路線のバス運賃は 300 円を上限にしている。地域公共交通の確保は、地域での個別の取り組みではなく、国の主導によるスタンダード化が必要と考える。</p>	<p>既に試算をし、公共投資額に比べて約4倍の経費が毎年必要になる状況。とてもこれからの財政状況を考えたときに、こんな更新投資はできない。したがって、どういう形でこれをダウンサイジングして整理していくかは非常に大きな課題。</p> <p>○ ただい、これは行政でこうですと決めてやるのではない。今は、市民の皆さん方にそういう状況だということをまず認識していただいて、それではこれから何をどうしていくかを検討していきましょうという総論の段階。</p> <p>○ どこかに人口を集めてしまっというやり方は、日本の地方にとってできない。それぞれの地域の歴史的背景に基づいて発展してきており、魅力をなくしてしまうだけである。そうならないようにするための、拠点集約連携型のという考え方。</p> <p>○ 国としてもこうした都市構造を目指していくことが必要なのだということもまず認識してもらい、地方全体で共有してもらうことがまず必要。その上でどうやってそれを進めるかという議論は各地域においていろいろなやり方がある。余り微に入り細にわたった形でプロジェクトをこれでこうだという形にするのはこの時代には全く合わない。右肩下がりの時代においては臨機応変に対応できる形で考えていかなければならない中で、最初に計画を決めて、このとおりにやれというやり方は、その地域を殺しかねない。</p> <p>(自治組織単位で課題解決)</p> <p>○ 平成 19 年度から自治会を地域自</p>	

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
					<p>治組織に組みかえ、縦割りであった自治会の機能を 20 地区で横割りにする形で自立化を図っていかうということをやっている。行政が指示して、地域自治組織にこれでどうだという話ではなく、地域自治組織の中で考えてもらっている。地区の基本構想が結構大事になってくる。</p> <p>○ 公民館活動を通じて、地域の中で学び、そして地域の課題を発見し、そこからできることを探す。それが NPO 法人やビジネスにつながる。全国に広がっております屋根貸し事業の原点になった会社もそこから立ち上がった。</p>	
<b>5 連携中枢都市圏等</b>						
(1) 連携中枢都市圏等において施策を講じることの必要性	<p>(ローカル経済圏の構築)</p> <p>○ クローバル化からローカル化へウェートを徐々に移す。ヒト・モノ・カネ、そして情報の循環を基調としたローカル経済圏を構築する必要。そのためには、高度化された移動手段や運搬手段を有する圏域であることが必要。その上で需要と供給のバランスを取るに足るだけの広がりがあり、人口規模と多様な産業構造等を有する圏域であることが必要。</p> <p>○ 広島広域都市圏には、圏域の大動脈とも言えるインフラは整備されている。時速 60 キロで1時間、距離にして 60 キロ。この圏域内には1次産業から3次産業まで適度に産業が分布。人々が生活する需要と供給のバランスをとることができる地域資源、地域産業がある。現在の行政区域に固執することなく、県の壁、市の壁を越えて、圏域 17 の市</p>	<p>(単独自治体のフルセット行政からの脱却)</p> <p>○ 単独の自治体のフルセット行政からの脱却、産学官民など多様な主体との連携など、地方中枢拠点都市圏構想は真に地方分権の受け皿となり得るのかどうか。とりわけ地方が独自性を打ち出す中で、経済政策を含め、地方の政策立案能力が試される取り組みである。</p>		<p>(単独自治体のフルセット行政からの脱却)</p> <p>○ 行政サービスの圏域への拡充について、八戸定住自立圏の事業として、子育て、福祉、産業、雇用、社会教育、市民活動、職員研修等の分野において、八戸市の事業を圏域町村・住民に拡大して、実施している。このように、人口の少ない町村ほど、単独での多様な行政サービス、住民との連携事業の実施は困難であり、中心市の事業を圏域に拡充するなどして、圏域の行政サービスの充実を図らざるを得ない状況にある。</p>	<p>(Uターン・Iターンの受け皿)</p> <p>○ これまでの人口増加時代は、地方は大都市圏に対し人材の供給地となっていた。高校を卒業すると、約8割の若者が地域をはなれる状況。その皆さん方が子育てになかなかこの地域に戻ってこない。この状況が地方における人口減少・少子化・高齢化に拍車をかける。大都市圏においても特殊出生率が低いという状況の中で、全体としても、人口減少・少子化・高齢化を進めるような状況になってしまったというのが今の状況。</p> <p>○ 大都市圏から地方に向かっての人材をどのような形で戻していくか。それを受けとめるのが、定住自立圏である。</p> <p>(補完)</p> <p>○ 市内の各地区の単位で考えていけることは考えてもらうことが基本。</p>	<p>(職員の共有)</p> <p>○ 役場職員は平成 10 年度に 41 名であった。長野県は市町村合併がなかなか進まず現在でも 77 市町村がある中で、平成 16 年に当面は自立をしようという「ネバーギブアップ宣言」をして、当面、自分たちで頑張ろうという中で、平成 26 年時点は職員数が 24 名となっている。地方の役場職員はオールマイティー、何でもこなせなければいけないところであり、人数的には非常に大変な部分もあるのが現状である。</p> <p>○ 今も私どもは飯田市を中心に定住自立圏構想等々でさまざまな連携をしているが、私どもは職員が 24 名ということで、小さな町村では専門職の職員が皆無という状況であるため、職員共有という表現が正しいかどうかは別として、そのようなことができらばと思っている。</p>

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
	町が一体となって、全ての市町がより魅力を高めて、経済発展するようにできるのではないか。				そこでできないことを市全体で考える。単体の市町村だけでできないことをさらに広域連合なり、定住自立圏なりの枠組みで考えていく。課題に対して、身近な課題はなるべく身近で解決を図っていく。大きくなればなるほどその範囲を広げていくという考え方。生活圏、経済圏でも解決できない課題は、例えば流域圏も考えられる。	
(2) 連携中枢都市圏の形成を促す上で留意すべきこと	<p>(中心市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 圏域の中心都市である広島市は、市域内の住民だけではなく、圏域内の住民226万人全体の暮らしを支える役割を担わなければいけない。</li> <li>○ 例えば圏域全体の経済成長の牽引役。圏域内の市町の資源を生かし、圏域全体の活力を生み出す経済施策を企画・立案する。</li> <li>○ 圏域内のサービス提供役として、本市域区域を越えた行政サービスの提供が必要。</li> <li>○ 広域連携を考えていくときに、中心となる都市がそれらを束ねる役割をきちっと担うことをやる必要がある。盛岡市さんのように自分たちでなかなかできないから県のほうに助けてもらいたいという気持ちは理解するが、広島市は昭和55年以降、政令指定都市になって広域的な行政に少しなれがある。近隣市町と同格と言いながらも、少し兄貴分のような存在。予算面あるいは事務面で他の小さな市町ができないところを肩代わりしてあげることをもっと積極的にやることができればと考えている。</li> </ul>				<p>(中心市の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中心市の役割とは一体何か。生活圏、経済圏を同じくしているところで考えていく必要。産業振興、地域医療あるいは環境政策など行政区というものは今の市町村の区切りの中だけで考えるのは政策としては中途半端になりがち。産業振興を例にとれば、ほかのまちの皆さん方から地域の工場、飯田市の工場なり、会社なりに働きに来ている人もいますし、逆の場合もある。まさに生活圏、経済圏を一緒にしているところは一緒にの政策で考えていかなければいけない。</li> </ul>	

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
	<p>(中心市内部からの懸念)</p> <p>○ 実際、市議会議員の方々はそれぞれ地域を担って出てきているため、他の地域まで広く面倒を見るだけの余裕があるのだろうかという問題点を提起される。なかなか兄貴分的な働きが実際できにくい側面が多々ある。そういった環境整備を国政レベルでやっていただくことができればより一段加速するのではないか。</p>					
		<p>(近隣市町村との問題意識の共有)</p> <p>○ 発達障害児の支援センターを福山市が整備したとき、各市長がそれぞれ課題意識を持っていた。そのことが一体的に行うことを可能とした面もある。</p> <p>(近隣市町村の懸念)</p> <p>○ 地方中枢拠点都市圏構想ができたときに、中枢拠点都市と周辺の市とのかかわりがどうなるのであろうかということについては皆さん方、随分不安を持っている。中心の福山市だけが得をするのではないかという思いもあったかと思う。いろいろな課題、例えば福山市は消費地で、周辺のまちは生産地ということもあり、医療連携ということも実施しているので、割とスムーズに備後の国の6市2町は一体的に取り組もうという形になったのではないか。</p> <p>○ 福山市としての事務方は大変だったと思う。それぞれの市町と中核市とがウイン・ウインの関係にならなければいけないという思いがある。それぞれの市町が本当に広域の中でやりたいこと、そういったことを十分聞かせていただく。あるいはそれ</p>	<p>(近隣市町村の懸念)</p> <p>○ 地方中枢拠点都市に向けて、関係者のメリットが見えにくいことがある。必要なものだけ連携協約を結べばいいのですからデメリットはないでしょうと私どもは言うが、なかなかそれが理解されないというものはある。経済戦略といっても、それぞれの事情によって温度差がある。</p>		<p>(近隣市町村との問題意識の共有)</p> <p>○ 飯田市が定住自立圏で先陣を切れたかのは、周りの町村長さんたちと絶えず議論する。いろいろなことを話し合う場として広域連合があったということが大きい。毎月1回、必ず首長さんたちが出てきて、円卓を囲んで、その時々地域の広域課題を話し合う。今、ごみ処理や地域防災等を話し合ったりしている。そういう場がなく、いきなり一緒にやりましょうと言ったら、それは中心市になるところが、そんなに頼られても困るよという話になる。まずは何が自分たちの役割でできるかをちゃんと話し合う場というものを用意すべき。</p>	

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
		<p>それぞれの市町の住民の皆さん方のアンケートをとるとか、そういうことに対してはかなりきめ細かな調査をやっている。今後の備後圏域という1つの圏域を考えたときには、福山市を中心としてやっていかなければならないと思っている。</p>				
	<p>(歴史的経緯)</p> <p>○ どうも江戸期に戻るのではないか。広島県は安芸という国と備後という国があり、これは明治期以後に廃藩置県をして、行政区画をつくり直した。250年ぐらい続いた江戸体制のもとでの地形を生かした経済圏はなじんでいるのではないか。そういったまとまりに着目しながら、お互い共同意識を醸成していくというやり方も必要ではないか。</p>	<p>(歴史的経緯)</p> <p>○ 圏域の核となる福山市は、江戸時代の福山藩が基礎。明治の廃藩置県により、本市が県庁所在地であった時期や井原市、笠岡市とともに小田県に属した時期もある。こうした歴史的な背景もあり、今は県境をまたいでも、地域の結びつきが強く、このたびの構想にも単に近い者同士といったことではなく、広域連携の素地がある地域が協力をして手を挙げたということである。</p>				<p>(地理的状況)</p> <p>○ 愛知県の三河地方の水源である一級河川の矢作川の源流地域にあり、この矢作川を通じた上下流の連携が古くから根づいている地域。</p>
	<p>(住民の一体感の醸成)</p> <p>○ 住民との一体感は、私自身は、広島というまちを考えたときに、例えば通勤圏、通学圏ということが既に経済面で形成されているため、今いる人たち、それを経験した人たちはそれを通じて自分たちの経済、この地域は一体だなと感じるだろう。</p> <p>○ 一方、今回のようにより広域に設定したときは、新しい価値観をぶら下げてもなかなかびんと来ない。そこで、親、おじいさん、御先祖という歴史を引っ張り出して、それで安芸の国とかと言ってみた。これはその地域が持っている価値観をもう一回蘇生させて、まとまりをつけるという意味では有効ではないか。</p>	<p>(住民の一体感の醸成)</p> <p>○ 体育館、野球場、スポーツ施設などは、1市で持つ必要はない。それぞれの役割分担で広域で持つのではないかと話もしている。福山市の場合は発達に課題のある子供たちのケアというもの、療育という視点で医者を入れていろいろやっている。そういったことを一つ一つ積み重ねることによって地域の広域の中での住民の一体感が生まれてくるのではないか。</p>	<p>(住民の一体感の醸成)</p> <p>○ 住民の一体感の醸成は、まさに盛岡ナンバー。私のうちの前に近所から見に来る人がいます。おお、いいなど。こういうたわいのないことが住民の結束を強めるのではなかろうか。</p>			<p>(住民の一体感の醸成)</p> <p>○ 循環の仕組みづくりと、地域内で動かすための住民意識の醸成が非常に重要であると考えている。</p>

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
	<p>(これまでの圏域醸成の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成5年に広島広域都市圏形成懇談会を設立。実際の活動は、広報活動、職員研修、スポーツの共同応援等に限定。今までの取り組みをギアチェンジし、エリア設定を生かした本格的な圏域活性化に乗り出し、24年2月に懇談会を広島広域都市圏協議会に改名。神楽講演会であるとか、イベント、共同商品の出展を行いまして、行政区画を乗り越えた連携のもとで地域資源の活用を、小さいながら、具体的な取り組みを始めた。</li> <li>○ これまでも広島広域都市圏においては、市町同士で連携した取り組みを行ってきた。昨年4月に総務省の新たな広域連携モデル構築事業の委託に関する提案募集があった際に、今こそこの制度の活用をして、これまでの取り組みを発展させて、圏域を単位とした、さらなる経済活性化の取り組みをやるべきタイミングだと考えた。</li> <li>○ まず、200万人維持を目標として設定し、そのもとで圏域全体の活性化を図るための取り組みを関係市町が一体となって展開する呼びかけの手紙を首長様あてにお送りした。受け取った16の市町の首長さんから快諾を得た</li> <li>○ そこで新たな広域連携モデル事業に応募し、地方中枢拠点都市検討会議を開催。</li> </ul>	<p>(これまでの圏域醸成の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2011年度には6市2町の市長、町長で組織をする備後圏域連携協議会を立ち上げ、県境を越えて連携を深める中で広域的な課題解決に取り組んできた。</li> <li>○ これまで、発達障害児の増加に対応し、専門的な支援が受けられるよう、福山市がこども発達支援センターを整備し、それを6市2町で共同運営を行ってきた。</li> </ul>	<p>(これまでの圏域醸成の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 平成20年から盛岡広域首長懇談会があり、今回のモデル都市の応募に際しての背景となっている。</li> <li>○ これまで、消費生活部会、救急医療部会、企業誘致部会で連携をすすめてきた。</li> <li>○ 懇談会の運営に係る当市の役割、効果、責任、権限が不明確かなということもある状況だが、これらも乗り越えて進めていこうと考えている。</li> </ul>	<p>(これまでの圏域醸成の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 八戸圏域は、平成21年度に定住自立圏形成協定を締結し、当初は20の連携事業からスタートし、その後、連携事業を積極的に展開し、現在は30の連携事業を実施している。また、八戸市では、平成28年度内を目標に中核市への移行を目指しており、新たな広域連携として地方中枢拠点都市圏の形成も視野に入れている。</li> </ul>	<p>(これまでの圏域醸成の取組み)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 定住自立圏の形成を全国に先駆けて出来たのは、広域連合において、首長が月に1回、必ず会合を持ち、時々地域の広域的な課題について話し合うという場があったからである。</li> </ul>	

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
(3) 連携中枢都市圏等の取組みを強化・充実していく上で留意すべきこと	<p>(合意を得やすい事業:観光)</p> <p>○ 首長が自分たちのまちの特色を生かし、お互いに行き来する。俗に言えば、観光だが、人を直ちに移動させる効果を感じずことで相当成果があるのではないか。例えばこの圏域内でいろいろな祭りがあったときに、こぞってその地域の首長があるの祭りを見に行こうではないかとか、食べに行こうではないかとなる。そうすると、実際金の移動が起き、人の移動が起こって、にぎやかになる。ウイン・ウイン関係が重要で、実感につながる。</p> <p>(合意を得やすい事業:交通)</p> <p>○ 観光をより確実にするために、公共交通システムがある。システムとして、例えば次に料金設定などについて、移動のときにお互いのまちの行き来のときの料金割引をすることや、一定エリアのところは幾ら回っても料金設定が高くない等の工夫をしようではないかということで今、仕掛けている。そうすることでト・モノ・カネの人の移動のしやすさを仕掛けることで全体の活性化のチャンスをつくる。これも皆さんある程度納得している。</p> <p>(合意を得やすい事業:駅周辺開発)</p> <p>○ 今まで広島駅周辺の都市開発が進んでいなかったものですので、この4年間で大幅に駅の周辺の開発を民間主体でするようにした。広島を中心とした交通体系が発展することで利便性を享受し、経済圏域、この地域の状況がよくなりますという説明は今のところ皆さんに肯定的に受けとめられている。</p>	<p>(合意を得やすい事業:観光)</p> <p>○ 形としてそれぞれの市町が実感できること。まずは広域観光が出发点。国内だけではなく、海外を視野に入れた観光もある。広域で魅力を発信することが最初のきっかけづくりになるのではないかな。</p> <p>(合意を得やすい事業:医療)</p> <p>○ 医療連携について、研修を何とかやっていきたい。医師の派遣は非常に難しい状況があるが、公立の病院同士の連携ということの中で、それぞれの市町にウイン・ウインの中でいいものを感じられるようなものをまずつくっていかなければいけない。</p> <p>(合意を得やすい事業:地産地消)</p> <p>○ 1次産業、農業産品等々について、消費地と生産地ということがあります。それぞれ学校とか保育所の給食食材については地産地消をやっている。それぞれの地域の特産品をお互いにメニューの中に入れて交換し、連携ができればいいと思う。</p>	<p>(合意を得やすい事業:観光)</p> <p>○ 実際にやって効果があるのは、観光。実質的に盛岡市は盛岡・八幡平広域観光圏というものを形成している。盛岡に人が来ればそっちにも流すからとか、あるいはそういったことを共同でやれば、その地域の人も盛り上がるし、手ごたえも感じる。</p> <p>(合意を得やすい事業:交通)</p> <p>○ これは未来形だが、やれば多分いいだろうと思うのが交通。</p> <p>(合意を得やすい事業:医療)</p> <p>○ 今、やっているのは、岩手医科大学移転によりますところの医療体制の再編はうまくいくだろう。</p> <p>(合意を得やすい事業:企業誘致)</p> <p>○ もう一つは企業誘致。とにかく盛岡広域に引っ張ってこよう。そうするとお互い、どこも1つの地域だけで全部賄えるわけではないのだからということでやっている。</p>			

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
	<p>(取り組もうとしている事業:産業振興)</p> <p>○ 経済分野については、自動車産業関連の経営者の会議の開催により、二次・三次のサプライヤも含めて人材確保・育成、技術革新への対応、生産性向上等に取り組むとともに、有給長期インターンシップにより圏域内の大学で学ぶ学生の就職支援を行っていききたい。</p> <p>(取り組もうとしている事業:医療)</p> <p>○ 医療分野については、救急安心センターを開設し、医療相談員による24時間365日の体制での電話相談を受け付けまして、医療機関の受診案内、応急処置などの助言等を行うとともに、広島市の4つの市立病院と圏域内の医療機関との間をICTネットワークで結び、市立病院の高度な医療機能を他の医療機関へ提供できる基盤整備を行うことを検討している。</p> <p>(取り組もうとしている事業:その他)</p> <p>○ 他の構成市町からの提案を踏まえ、市の農林水産振興センターにおける新規の就農希望者を対象にした研修の対象を、圏域の新規就農希望者に拡大するとともに、病児・病後児保育や一時預かり保育等々の保育サービスを各市町での区域内のみならず、他の市町への通勤者など多様な保育ニーズに応える環境づくりをしていきたい。</p>	<p>(取り組もうとしている事業:医療福祉)</p> <p>○ 地方中枢拠点都市と中心とする広域連携については、地域住民や事業者からも医療や福祉の充実、人材育成などの面で期待をされている。</p>	<p>(取り組もうとしている事業:産業振興)</p> <p>○ 若者が定着して、産業活動が継続的、持続的に展開されていく必要がある。私どもの特徴として、岩手大学をキーとした産学官連携がある。研究成果はあるが、製品化までは時間がかかる。新事業創出支援センター等において、実用化に向けて支援したい。</p> <p>(取り組もうとしている事業:誘致)</p> <p>○ リニアコライダーの誘致は、将来の子供たちのために実現したいが、余りにもお金がかかる側面があるため、時間をかけて研究することになっている。</p> <p>○ 外国人観光客受け入れ体制の整備や MICE。大いに東北にも目を向けていただく活動をしたい。</p>	<p>(取り組んでいる事業:医療)</p> <p>○ 医師不足の状況に対処するため、八戸圏域では定住自立圏連携施策として、中核病院である市民病院からの医師派遣事業、市民病院を基地病院とした青森県ドクターヘリと、補完するドクターカーの運行の事業を展開している。</p> <p>(取り組んでいる事業:地域交通)</p> <p>○ 地域公共交通の確保は、定住自立圏の事業として、一定の支援をしている。定住自立圏への交付金や交付税措置を活用して実証実験をやった上で独自事業として展開している。</p>	<p>(取り組んでいる事業:産業振興)</p> <p>○ 経済自立度を上げるため、飯田市だけではなく、飯田下伊那全体の産業振興をどうしていくかという観点で産業振興を行ってきた。</p> <p>南信州・飯田産業センターは、産業振興の拠点として自治体、商工団体、金融機関、シンクタンク、大学の方、産業界の方、みんなが一緒になって考える仕組み。そこに地域の皆さん方が集まっているいろいろな機能を付加。今では地場産センターの製品の紹介、販売もしている。今、注目を集めているのが航空宇宙の産業クラスター。</p> <p>○ 本社機能を有することは非常に重要。航空宇宙産業のクラスターの中心企業は、本社が東京。創業者は飯田地域出身。事情があって飯田に本社を戻した。創業地に本社を戻したので、こういった取り組みができるようになった。</p> <p>(取り組んでいる事業:医療)</p> <p>○ 地域医療は、定住自立圏のモデル。私どもにとってもかなめ中のかなめの政策。飯伊地区包括医療協議会において、医師会、歯科医師会、薬剤師会と行政とが一緒になってこの地域の医療を考える仕組みをつくってきた。これにより、市立病院を中核とする当地域の医療体制というものをしっかり役割分担しながら維持していく体制を、時間をかけて構築してきた。</p>	

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
	<p>(今後の取組み)</p> <p>○ 今後、200万人広島都市圏構想の実現に向け、圏域内の公共交通網の充実強化、地域における雇用の場の拡大、圏域内の定住促進、この3つの分野に重点的に取り組みたい。</p>	<p>(今後の取組み)</p> <p>○ 来年度重点的に取り組むものは、産業支援の拠点機能整備に向けた企業等への基礎調査を初め、企業、大学間のコーディネート力の強化など、ソフト事業も充実すること、海産物のブランド化や圏域食材の学校給食への使用拡大、林業の振興にも取り組むこと、広域的な発達支援も推進、企業や国の機関の地方移転の誘致などがある。広域連携によるスケールメリットが生かせるものには積極的な取り組みを進めていきたい。</p>	<p>(今後の取組み)</p> <p>○ 今後、想定される新しい展開としては、広域圏産業振興事業団運営事業や、食産業連携強化事業等がある。何しろ岩手は規模が小さい、人は少ない。しかし、物はいいとみんなに言っていただける。いいものを使いたくてもロットが少ないために輸送料が非常にかかる。</p> <p>○ 中山間地が多いために、どんどんバス事業者の撤退路線がふえてきている。そういうところをうまく支援する仕組みのサポートをしていただければいいかなという意見等が出ている。</p>	<p>(今後の取組み)</p> <p>○ これまで定住自立圏において生活機能の強化にウエートを置いた広域連携を展開してきたが、産業集積及び高次都市機能の分野でも、八戸市を中心に連携を強化したいと考えている。</p>		
	<p>(連携に相応しくない事業)</p> <p>○ 今、基礎自治体としてやるべき仕事と、やれたらいいなという仕事の2つに分けたとき、やるべき仕事というのは、連携の対象にはなり得ると思う。やれたらいいなというものは、多分、広域連携をしたとしても、地域特性の中で自分たちのまちは他のところと違ってこういう特性を伸ばしたいとか、こういったところをぜひ強化したい。その独自性を残してくれという意思表示に違いがないので、そこを連携するというのは多分難しい。</p>	<p>(連携に相応しくない事業)</p> <p>○ 私も法的な制約がない限りは連携できない事務はないと思っている。それぞれの地方公共団体の役割は、住民に対する福祉の向上という意味では共通。それを単市でやるのか、それともお互いにこういう時代になっている。経費の削減の中で住民により高度な福祉サービスを提供するためには、単市だけではなくて連携したほうがより高いものが。そういったことを模索していくのが今回の趣旨。</p>	<p>(連携に相応しくない事業)</p> <p>○ 広域連携できないものはないが、選挙もあるため、市民感情に照らし合わせて行く必要があるのではないか。</p>			
	<p>(より強い連携)</p> <p>○ 連携の度合いは、白地に絵を描いたようなモデルはあってもいいが、実際できないので、現状を実践的にどう組みかえていくかという発想しかない。理想として強い統合体を置いても、実際は緩やかに、徐々にそれに向けてやるというほかない。</p>	<p>(より強い連携)</p> <p>○ 緩やかな連携から本当の一体感ということになると、それは合併が究極の形になるだろう。ただ、社会保障関係費がふえて税収が落ちる。そのギャップをどうやって行政運営していくかが行政として最大の課題であり、それぞれが行財政改革をやっている。</p>	<p>(より強い連携)</p> <p>○ 今のような、緩やかな地方中枢拠点都市圏の試みは、緒についたばかりなので、これをまず頑張って進めたい。</p>			

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
		<p>(成功体験の積み重ね)</p> <p>○ こども発達支援センターの共同運営のように、なるべく早い時期で目に見える成果が必要。</p>	<p>(成功事例の積み重ね)</p> <p>○ 車のナンバーの申請について、盛岡広域で、盛岡ナンバーということで申請しますがどうですかと各構成市町を回った。岩手県岩手郡岩手町があるので、全部盛岡ということもどうかという意見もあった。みんな連携には認識は一致するのですが、さあやるといったときにはやや警戒もされる。今後は、成功事例の積み重ねも大事。</p>			
		<p>(地域の独自性を活かす)</p> <p>○ 全て中枢拠点都市が中心となるのではなく、観光、第1次産業など、各地域の強みを生かす中で、ワイン・ウインの関係をつくることが重要。</p>	<p>(地域の独自性を活かす)</p> <p>○ 広域の中の就業者数は、それぞれ状態が違うので、議論をするときにもやや温度差が出る1つの要因でもある。盛岡は三次産業に偏っている特殊性もある。お酒と麺文化は非常に先を走っているが、後はなかなか追いついていけない状況。また、観光資源があるところ、ないところさまざまある。そこをどううまくやっていくかという課題がある。</p>			
	<p>(権限移譲)</p> <p>○ 現在、県から各市町に移譲された権限のうち、専門性が高い権限などは、広島市など規模の大きい市町が地方自治法に基づく事務の委託をすることで広島市が近隣市町の住民に対しても権限を行使することを考えている。</p> <p>指定都市には、第30次の地方制度調査会の答申に基づき、権限移譲が進んだが、市域を越える権限などは、移譲が見送られている。基礎自治体への移譲による効果が見込まれる権限については、圏域の中心都市が市域を越えて担うことができれば、圏域内ネットワークの強</p>	<p>(権限移譲)</p> <p>○ 地方中枢拠点都市制度は一定の人口規模の実態が対象となっているが、その都市が持つ機能や役割には違いがある。例えば政令指定都市に隣接をし、その機能を享受する中で、衛星都市として労働力の提供やベッドタウンとしての役割を担っている都市と、本市のような県庁所在地ではない地方の中核市では、置かれている環境や担うべき役割が異なっている。人口規模による一律の支援制度ではなく、その地方が持つ多様性や性質が生かせる制度へと権限移譲と確実な財源措置とをあわせて検討いただくことで、</p>			<p>(権限移譲)</p> <p>○ 国の役割は、自分たちの地域を自分たちでつくっていく考えを支えてもらうこと。右肩下がりの時代には絶対必要な考え方で、権限移譲を進めてほしい。</p>	

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
	<p>化につながると考えております。このような取り組みを国においても支援していただければ、地方中枢拠点都市制度による圏域形成は、分権型社会の新しい展開になるのではないかと考えている。</p> <p>○ とりわけ、権限移譲に係る実施体制を考えたときに、権能はあるけれども、小さな市町村の中には行政客体がほとんどない。あったとしても、1年のうち数回しか稼働しない業務は、広域連携の中でその多くが集積しているまちが原則担って、その境界線を越えてお手伝いできるということをやるという仕掛けがないと、結局、絵にかいたもちになる。地域ごとにもう少し弾力的な発想が必要。</p>	<p>より効果的な広域連携の推進につながる。</p>				
		<p>(職員の政策形成能力の向上)</p> <p>○ 地方自治体の職員が政策形成能力を高める必要がある。</p>	<p>(圏域内での職員の融通)</p> <p>○ 新たな連携に伴う拠点都市及び関係市町の責任と事務負担について、私ども2,300人の職員がいるところと、100人しかいないようなところではやはりどうしても差が出る。盛岡市がお手伝いしますということもある。私どもの皆、連携の必要性は一致している。</p>		<p>(職員の政策形成能力の向上)</p> <p>○ 飯田市の特徴は公民館。行政の職員を若いうちに配置して、地域のことを学んでもらうというキャリアパスを形成している。</p> <p>○ 職員は、公民館の主事を5、6年ぐらい最低やってもらう。縦割的にしか仕事をしないというのではなくて、まさに地域の中に放り出して、地域の課題を自分で把握して、その課題解決を考えるという学びをずっとやってもらっている。既に40年ぐらいの歴史を持ったやり方。そういったところから帰ってきた人間がいわゆるプロジェクトの立案や政策の立案にかかわる。市役所の中では、かなりフレキシブルな議論ができています。</p>	<p>(圏域内での職員の融通)</p> <p>○ 今も私どもは飯田市を中心に定住自立圏構想等々でさまざまな連携をしているが、私どもは職員が24名ということで、小さな町村では専門職の職員が皆無という状況であるため、職員共有という表現が正しいかどうかは別として、そのようなことができればと思っている。(再掲)</p>

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
		(財政支援) ○ 国には、恒久的な財政支援の仕組みを検討していただきたい。				
	(連携協約以外の方法) ○ 都市の行政サービスとして欠かさない例えば消防、ごみの処理、下水道事業、市民の健康、医療の提供。こういったものについては、それらを固有の事業主体を決めて、合同で設立してやるというやり方がある。 ○ 今回、広島市営の病院を独立行政法人化させた。そして大きな枠については議会の調整を経るが、ディテールについては独立行政法人に任せるというやり方がある。最初は抵抗があったが、複数の基礎自治体が一緒になって運営主体を外につくり、議会が基本部分だけコントロールして、ディテールは任せるということがもっともっと進めば、緩やかな統合体から強い統合体に行くためのいいプロセスではないか。首長さんとそういった独立した一定の組織が連携を深めるというのが実践的ではないか。	(連携協約以外の方法) ○ その中で、本当に行政の職員でないとできないもの。あるいは民間に委託できるもの。連携をしながら、税務の関係などは連合体でできないのか。あるいは監査機能はそれぞれが持つ必要はないので、福山市が持って全体をしたらどうか。社会福祉施設のいわゆる民間社会福祉法人の監査もどうか。そういったことを今、検討させている。 ○ 人口が減って行って、職員がこのままでもいいわけがないのです。人口の減少と同じように職員数もきちっとしていかなければいけない。そのためのやり方がどうなのかということの中で、お互いに連携をして、連合という形になるのか、どういう形になるのか。お互いがスケールメリットを生かすようなあり方を考えていかなければいけないのではないか。 ○ 合併については課題もある。最終的に合併がいいのか、都市間同士がお互いに連携したほうがよりそれぞれの市町の独自性を生かした中でできるのか、そういうことは今後についていろいろな試験をしながら考えていかなければならないのではないか。	(連携協約以外の方法) ○ 岩手県なりに周りにはかなりの人口はまだあるといったときには、合併の選択肢は捨て切れない。今までできなかったものがどうしてできるのかという問題はありますが、そういったことの支援もできれば残してほしい。			
		(多様な主体との連携) ○ 事業展開に当たり、大学や民間企業、金融機関などが連携をして、一緒に取り組みたいと思える仕組みづくりも大切。			(人材サイクルの構築) ○ 専門家は地域の外にいる。人材サイクルを構築する上で、専門家による長期的かつ継続的な地域への関与は非常に重要。これを農村交流から発展させ「学輪 IIDA」とい	○ 明治用水土地改良区あるいは安城市さん、アイシングループさん、こういった皆さん、あるいは団体、企業等との連携、力を借りる中で、流域地域づくりをしているのが現

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
					<p>う知のネットワークにまで結びつけた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人材サイクルが構築されると、人口減少・少子化・高齢化の時代にあっても、十分、地域の活性化ができる。</li> <li>○ 人材サイクルの構築後の取り組みは、新しい変化に対応していくために、いろいろな皆さん方が話し合い、協働でプロジェクトを行えるような共創の場づくりが基本。新しいイノベーションが生まれ、ダイナミズムがつくられていく。こうしたことを他地域でもつくれる仕組みを考えていくことが必要。</li> </ul>	状。
	<p>(地域の金融機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域の民間金融機関は、いわゆる地元の顧客サービスをしていかないとこれからの発展は見込めない。大きな企業の長期投資はなかなかない。企業の社会的責任ということ掲げてやっている地域金融機関と仲よくする。例えば中山間地等で農業支援を JA と一緒になってやる時にも行政として支援し、広島地域の中山間地のみならず、その隣接する市町と一緒に応援する。そして農業就業などを仕掛けるときの初期投資に細かい額でありますけれども、名前を入れて、地域密着金融機関になりますよということを申し上げてやろうという仕掛けをする中で、少しでも地元で金が落ちるようにということをやっている。</li> </ul>	<p>(地域の金融機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ これまで、民間金融機関にある経済研究所等に職員を派遣することや講師を派遣してもらったこともあった。中枢都市の中で産学官金が入ることは、金融機関も非常に喜んでいる。福山市の職員と銀行関係との長期の派遣といったものも現実的な形で出てきている。我々としても、銀行が持っている情報は経済のいろいろな政策をつくるに当たってためになる。職員の相互派遣ということの中でますます連携が深くなれば良いと考えている。</li> </ul>	<p>(地域の金融機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 民間金融機関から、震災復興の関係で、職員を派遣された。市が出資する第三セクターでも職員の受入れがある。産学官金の中でネットワークがある。6次産業化に興味のある銀行もあるので、そういう情報を我々は持っており、うまくマッチングをしていきたい</li> </ul>		<p>(地域の金融機関との連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 産業政策を地域の中で根づかせていくためには非常に長い時間と関係者の皆さんの努力が必要。特に新しい産業が根づいて、自立させていくためには、地域金融、政策金融の役割が大きい。</li> </ul>	

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
		<p>(議会との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 議会との連携は各市町でいろいろあると思うが、議会は議会同士の各市町との連携は、私が見た限りはうまくいっているのではないかと。</li> </ul>	<p>(議会との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 盛岡広域の正副議長懇談会において新たな制度についての説明をしている。「議決のときだけ相談してもらっては困る。常日ごろから相談してくれ」という話が議長から直接ある状況。</li> <li>○ 議会は非常に積極的に応援してくれている。</li> </ul>		<p>(議会との関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 議会とよく車の両輪という話がある。飯田市の議会は、自分を律するという意味での自律的な部分をかなり有している、右肩上がりの時代は、分配をするための議会の議員さんの機能は全面に出ていて、自分の出身母体の地域にどれだけ予算を持ってくるかということが恐らくあったのではないかと推測。私が市長になって以降、ほとんど右肩下がりの時代で、余りそういう議論をすることは無い。むしろ、こういった地域をどのような形でこれからやっていくかという議論の場になっているし、市全体の方向性についての議論の場になっている。</li> </ul>	
	<p>(県との協力関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地方中枢拠点都市の取り組みについて、経済、医療、交通等の施策があるが、これは県自身が広域的な視点から戦略をとってきているため、県と協力関係をつくるのが有効。</li> </ul> <p>知事のほうからも、今回の本市の取り組みは県全体の発展にとって有意義であり、県の取り組みとの重複、広島広域都市圏以外の地域とのバランスという視点からしっかり役割分担を行えるように協力したいという意見をいただいております、県としっかり整理して取り組んでいきたい。</p>	<p>(県との協力関係)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 備後圏域の産学金官民のプラットフォームとして、今年度、びんご圏域活性化戦略会議を立ち上げた。広島、岡山両県にオブザーバーとして参加いただいているほか、医療連携の分野で協力してもらっている。</li> <li>○ 岡山県を中心に走っていた井笠バスが破綻したときに、岡山県と福山市が一体となって公共交通をどうやって維持するかということで連携をしながら取り組んできた経過もある。医師の派遣等も、岡山県側は非常に積極的に参加していただいたということもある。</li> </ul>				
	<p>(県域と圏域との調整)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 広島広域都市圏の区域は広島県を越えて、山口県岩国市、柳井市も含んでいる。より実態に則した圏域を設定した結果である。しかしなが</li> </ul>	<p>(県域と圏域との調整)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県が策定する医療計画で設定されている現在の医療圏は、必ずしも住民の生活圏と一致しているものではないため、本圏域のように県境を</li> </ul>				

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
	ら、広域的な行政施策の多くは、都道府県域を単位として制度設計がされている。例えば医療分野であれば、医療法に基づき都道府県が医療計画を策定して、二次医療圏の設定や医療提供の量、病床数の管理がされている。そこで私は、必ずしも都道府県単位の制度設計にとられることなく、経済面、生活面でのつながりを重視した取り組みが可能である。まずは都道府県域を越えたとしても連携が可能になるものから連携を開始し、こうした実績を積み重ね、足もとを固めることによって都道府県域を越えた圏域内の市町の花ながりの強化を図っていくことが重要だと考えている。	またぐ場合などは柔軟に医療圏が設定できる仕組みづくりを進めていただきたい。				
<b>6 その他</b>						
		<p>(規制緩和)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 今後、看護師不足も懸念されているが、県が指定するナースセンターが広島市に1カ所。県東部の福山市からは距離があり過ぎて実質利用できる状況にはない。県が1つに限り指定できるといった基準を緩和し、県内に複数施設の指定を可能としていただきたい。</li> </ul> <p>(介護現場の労働条件等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 介護現場は人の役に立っていると実感できるやりがいのある職場にも関わらず、労働の割に低所得で離職率が高い。このため、介護報酬の見直しには対処療法的な加算措置による職員の賃金対策だけではなく、抜本的な職員処遇の改善やサービス向上に確実に還元される仕組みが求められる。また、税制などで優遇措置を受けている社会福祉法人等の財務状況の透明性の確</li> </ul>		<p>(ドクターヘリ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 青森県の人口10万人当たりの医師数は、全国平均を大きく下回り、医師不足の状況は変わらない。地方圏における抜本的な医師確保対策が必要と感じている。ドクターヘリの運航については、都道府県境にかかわらず、直近の基地病院に最速で派遣要請できるよう、国の主導による連携体制の構築が必要。</li> </ul> <p>例えば、都道府県が運営を支える自治医科大学に倣い、地域医療に従事する医師を養成・確保するため、定住自立圏が自律的に運営する自治医科大学分校を設立してはどうか。</p> <p>(公共交通)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 公共交通の問題は地域のさまざまな問題の中で非常に重要な問題。当地域だけではなく、まさにオ</li> </ul>	<p>(本社移転)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 人材サイクルの構築をする場合、地方における吸引力というものはどうしても限界がある。大都市から人材を押し出す、そのための仕組みといたしまして、都市から地方に子育て世代を戻していくためのある程度の制度的な規制が必要。民間企業の本社を創業地に戻すような環境整備ができないか。</li> </ul>	<p>(ジビエ)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 有害鳥獣による被害は本当に深刻であり、特に林業については鹿とか熊による剥皮により木が突然ある日枯れてしまう。価値が全くゼロになって、同時に山が崩れてくる。そういった非常に環境破壊の深刻な問題があるのと、農業については、農業は単年度で収穫があるが、鹿、特に猿などは、せっかくつくって、明日出そうとしたものが一気にだめになってしまう。その対策も、今の国のほうの支援を受けながら、特に鹿については、長野県は特にジビエ料理という形で推奨して、実は私どもの根羽村にも加工場を既に持って、出している。ただ、衛生面で非常に厳しいものがありそれは統一的な決まりをつくらうとやっている。</li> </ul>

	広島市	福山市	盛岡市	八戸市	飯田市	根羽村
		<p>保など、監査機能の充実や低賃金で重労働のイメージの払拭に取り組まれる必要がある。</p> <p>(看護師の労働条件等)</p> <p>○ 福山市が看護師の再就職支援に向けた調査を行ったところ、20代で約半数の人が退職を経験している実態や、雇用者側の無理解で育児休業等の制度による支援を受けられていない人が一定程度いた状況などが把握できました。働き続けるためには、制度が雇用者側にも十分に理解され、活用できる制度にしなければならない。</p> <p>(地方の生の声の反映)</p> <p>○ 政策立案、制度改正の際にはしっかりと地方の市町村の生の声を聞いていただきたい。活力があり、特徴のある市町村ばかりでなく、ごく一般的な市町村の声にも耳を傾けていただくほうが多くの市町村で実効性の高いものになる。</p>		<p>ールジャパンの問題。国としてどこでも展開できる制度化が必要。</p> <p>○ 公営交通は国の施策によって、効率の悪い行政の事業だというマスコミも含めた批判によってみんな手を引いていった。民間に渡して、民間も結局維持できず路線を廃止するという流れになった。り、国全体としては、非常にまずい結果になっていると思っている。再生するためには、国として、ナショナルミニマムとして、公共交通を守ることに力を入れてほしい。</p>		